

年賀状あれこれ

上原 昇 (2組)

昨年2月頃から始まったコロナ禍はほぼ1年を経過する長期戦となった。親しい人と簡単に会えないこともあって、今年の年賀状は「コロナの収束を・・・」という一筆書きが多かった。

1月17日(日)には恒例のお年玉付き年賀はがきの抽選があつて、1等から3等までの発表があつた。今年も約300枚の年賀はがきを調べると、3等が8枚当たっていた。下2桁“50”、“58”、“60”が当たりなので、3%のほぼ確率通りである。お年玉付き年賀郵便の始まりを調べてみたら、1949(昭和24)年からとあつたので、我々の年齢と同じ歴史ということが分かった。(下のポスター参照)



**お年玉くじ付き年賀はがき
のポスター
1949(昭和24)年
逓信総合博物館所蔵**

当時の教科書などにもよく
見られるタイプの児童画

3等の賞品は切手シートで84円と63円の切手、147円分である。手元にあつた1993(平成5)年の切手シートは62円と41円の切手で103円分、この28年間で切手の値段も上がっている。(次のページの写真参照)

毎年12月中旬になると宛名書きを始めるが、最近はパソコンで出力印字する人が一般的で手書きの人は少なくなった。私はPCが苦手ということもあり手書き派だ。

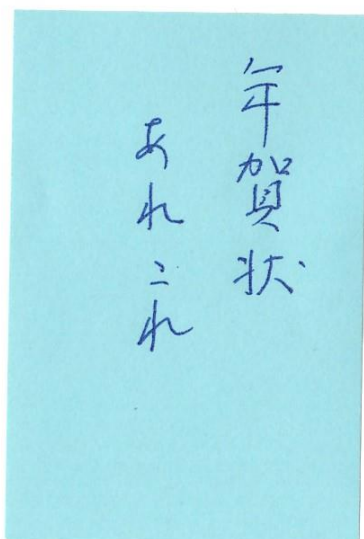
届いた賀状を見ると、「歳になったので、年賀状は今回限りとします」という人が増えた気がする。気持ちは良く分かるが、私は義理で出しているもの以外は字が書けるまで続けたいと思っている。

年1回のやりとりではあるが、お互いに1年間の経過報告という意味もあり、年賀状にはそれなりの意味があるようだ。

お年玉抽選の当たり確認後は、届いた年賀状を昨年のものでファイルに入れ替え作業を行っている。五十音順に整理しているが、姓が「うえはら」ということもあり、何故か「あ」行の人が多し。私が入った大学のクラスは約 50 名のクラスメートが全員「あ」行という特殊事情もあるようだ。かなりいい加減なクラス編成をしたものだと思う。今年はずいぶん悲しい新年の便りも届いた。いつも年賀状がくるはずの高校時代の親しかった仲間が昨年末、亡くなってしまい、1月に奥様から喪中のはがきに驚いた。解離性大動脈りゅうという病名で、なんの自覚症状もなく突然息を引き取ったとのことだ。コロナも怖い、いつどんなことが起きてもおかしくない年齢になったと改めて思った。来年も年賀状をやりとりできるよう、健康管理に留意して過ごしたいものだ。



平成 5 年（1993 年）切手シート



大蔵省印刷局製造

令和 3 年（2021 年）切手シート



抽せん日1月17日 / お年玉のお渡し期間1月18日～7月20日 / くじ番号を切り取らずに郵便局にお持ちください。

B0959組

お年玉

995885



Carlor Security Printing

LUK

(2021 年 1 月 20 日記)

以上